

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-159	高等学校	地理歴史科	世界史A	
※発行者の 番号・略号	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
35 清水	世 A 313	高等学校 世界史A 新訂版		

## 1 編修の趣旨及び留意点

本書は、平成21年3月に改訂された高等学校学習指導要領の趣旨に則り、また改正された教育基本法や学校教育法の規定などをふまえて、以下を趣旨として編修しました。

### ① 世界史への知的好奇心を高め、確かな学力を育む

- ▶ 高等学校地理歴史科の必修科目であることをふまえ、地理や日本史との関連をはかりつつ、世界の歴史への興味・関心を高め、その基礎的・総合的な知識や技能の習得をめざしました。
- ▶ 授業計画と1授業時間の進捗にも配慮して、63の本文テーマを用意しました。記述内容に過不足がないよう、1テーマを2～4ページで構成するとともに、見開きで展開させる工夫をしました。
- ▶ 1つのテーマにつき学習目標となる問いと学習内容のまとめを示し、学習の焦点化をはかるとともに、知識の定着と活用を促す工夫をしました。
- ▶ 細かな事項の習得・暗記にとどまることのないよう、それぞれの事象の因果関係や歴史上における意義などを丁寧に解説し、理解を有機的に深めることができるよう留意しました。
- ▶ 生徒の多様な関心・個性に対応しながら教養を深めることをはかって、写真やコラムなどは幅広い分野や身近な事柄から題材を取り上げるよう心がけました。

### ② 資料を活用し、立体的・多角的に探究する

- ▶ 地図や年表、写真などの諸資料を、授業で活用するという観点から精選し、豊富に掲載しました。これにより、立体的・多角的に世界史を探究させることをめざしました。
- ▶ 資料には右のような問いを適宜設置し、資料の活用を促しつつ、生徒の関心を高め主体的な学習につなげることができるよう工夫しました。
- ▶ ユネスコの世界遺産の写真には右のマークを付し、歴史的な遺物・遺跡の教材化をはかるとともに、それらの価値にも気づくことができるよう配慮しました。

この印章はどのように使われたのだろうか。



### ③ 現代世界を見つめる歴史的思考力を培う

- ▶国際化する現代の社会の要請をふまえ、諸地域の歴史をバランスよく取り上げるとともに、近現代における世界の一体化・グローバル化の過程を大局的に捉えられるよう配慮しました。
- ▶ユーラシア地域はもとより、それ以外の地域の歴史・文化などにも着目し、現代世界の多様な関心や課題意識に対応できるよう配慮しました。
- ▶現代世界の理解に必要かつ十分な歴史的事項を盛り込むだけでなく、右のように現代の事象を過去から遡って記述するなど、歴史的視点から現代世界を捉え、持続可能な社会の構築について長期的な視野をもって考察することができるよう工夫をしました。

▶ p.195

#### チェチェン紛争

チェチェンは、ムスリムのチェチェン人が住民の多数を占めるロシア連邦の自治共和国であるが、ソヴィエト連邦の崩壊後、独立を求めてロシアとの対立が続いてきた。チェチェンのあるカフカス地方は、18世紀後半、南下政策をとるロシア帝国に併合され、ソ連成立後は自治共和国として連邦に組み込まれた。第二次世界大戦中の1944年には、チェチェン人らはスターリンによってドイツとの協力を疑われ、他地域へ強制移住させられた。スターリンの死後、故郷へ帰還したが、彼らの連邦政府に対する恨みは根強く残った。

## 2 編修の基本方針

本書は、教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、以下の基本方針に基づき編修されました。

### ① 教育基本法第2条第1号に関して

- ▶歴史に関する知識を身に付け、日本人あるいは地球市民としての教養とするとともに、その知識を生かして現代の社会を主体的に考察し、さまざまな事象と課題の真理を追究してよりよい未来を築くことができるよう、日本を含む世界の歴史について丁寧かつ具体的に記述しました。
- ▶人類共通の経験としての世界の歴史を謙虚に学び多角的に考察する姿勢を重視し、公正な態度や道徳心を養うことができるよう配慮しました。また、調査・研究や討論など生徒たちが主体となって行う学習活動の紙面を用意し、情操面・身心における成長の促進にも資するものとなりました。

### ② 同第2号に関して

- ▶近代以降の世界において、個人の価値が見出され尊重されるようになってきた歴史的経緯を記述することによって、その重要性を知り、自他の価値と能力を互いに認め合う姿勢を身に付けることをめざしました。
- ▶創造する力や自主・自立の精神を重んじ、それらを育むことができるよう、先人たちが政治・経済・文化活動や技術開発などあらゆる分野で不断的な努力を重ねて職分を全うし、よりよい社会・生活と豊かな人間性を追求してきたことを系統的に記述しました。

### ③ 同第3号に関して

- ▶民主主義や基本的人権、男女の平等などが先人たちの努力によって歴史的に獲得されたものであることを記述し、それらを重んじ発展させていくことの大切さを理解するとともに、その実現のために主体的な取り組みや他者との協力を重視する態度を養うことをめざしました。

- ▶ 社会の発展や公共の福祉に尽くしてきた先人の歩みを記述し、またそのような人物を具体的に紹介することにより、社会に主体的に参画することの必要性を理解できるよう配慮しました。

#### ④ 同第4号に関して

- ▶ 歴史の中では時に多くの人命が危機にさらされるできごとがあったこと、また人々がそれを克服してきたことをも記述し、生命の重大な価値に気づかせ、それを尊ぶ姿勢と心を培うことができるように配慮しました。
- ▶ 歴史を通じて人々が多様な自然環境の中でそれを利用・開発しながら生活を営んできたことを記述し、これを通して自然とのかかわり方を考え、共生をはかる態度を育成することをめざしました。

#### ⑤ 同第5号に関して

- ▶ 日本や世界の諸地域が、互いに関連しながら特色ある伝統と文化を形成し発展させてきたことについて、写真や地図などを多用しながら記述しました。ユネスコの世界遺産の写真にはマークを付して注意を喚起しています。これらにより、さまざまな歴史的遺産と伝統・文化の価値を見出し、それらとそれらを生み出した地域や人々に敬愛の念をもち、尊重する態度を養うことをめざしました。
- ▶ 日本を含む世界の歴史上の人々が自己の郷土や国家の発展に尽力してきたことを記述し、自他の国や文化・宗教などを互いに尊重し国際理解・異文化理解に努める態度を養うとともに、国際社会の諸課題と恒久平和のために能動的に取り組む姿勢を培うことができるよう配慮しました。

### 3 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
序 編	・ 地理的観点から世界の歴史を捉えるための単元を設け、高等学校の地理歴史科の導入として幅広い知識や歴史学習の基本的技能を身に付けることができるよう意を用いました（第1号）。	・ 4～9 ページ
	・ 世界各地の自然環境について地図・写真などを多用しながら概観し、歴史上人々がさまざまな自然環境の中で特色ある生活を営んできたことを記述しました（第4号）。	・ 4～9 ページ
	・ 世界各地の伝統的な住居や人々の生活の様子を写した写真を掲載し、他者への関心を喚起するとともに、郷土や国土への親しみをもつことができるよう配慮しました（第1号・第5号）。	・ 4～9 ページ
第1編	・ 前近代のユーラシアの歴史とそこに発生した各文明の特色について、図版を多用しながら丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。	・ 第1編すべて
	・ 人類が多様な自然環境に適応しながら各地へと生活の場を広げ、土地に応じて特色ある生活様式を作り上げてきたことを記述しました（第2号・第4号）。	・ 10～11, 12～13, 24～25, 38～39, 43, 48～49, 62～63, 74～77 ページ

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地で国家の仕組みが整えられる中、公共の精神に基づいて社会の形成と発展に寄与した人々とその考え方や思想について記述しました（第3号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15, 28, 30, 40～41, 51, 52, 58, 65 ページ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の国際関係や平和と発展について考察するための契機となるよう、前近代における各国の対外関係や異民族との関係、諸地域間の接触・交流の様子について丁寧に記述しました（第5号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16, 19, 21, 27, 29～30, 32～35, 41, 44～45, 50～51, 54, 56～59, 64～65, 68～71 ページ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島を含む世界の文明について、人々が創造した制度や宗教・もの・建造物などを図版や写真とともに取り上げ、伝統としてのそれらを敬愛する態度をもちうるよう配慮しました（第5号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1編すべて</li> </ul>
<b>第2編</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本を含めた近代の世界の歴史について、そこに現れたさまざまな社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2編すべて</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>身分制度や奴隷制度、宗教的な制約や経済的な格差により個人の価値や自由が制限される中でも、人々がそれぞれの職分を果たしながら生活や経済活動を営み、文化を創造してきたことなどを記述しました（第2号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>82～85, 93, 94～95, 98～99, 121～122 ページ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民を問わずさまざまな人が将来を見据えながら自主的・自律的に近代化改革や運動などに邁進して新時代を築いた様子を、具体的な人物や事例を挙げながら記述しました（第3号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>102～105, 108～109, 110～119, 127, 128～129, 131, 133, 135, 136～140 ページ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主主義や基本的人権など自由と平等を尊重する動きが世界的に広まったことを記述し、政治・経済や教育・文化などあらゆる面において改革が行われた経緯と今日に至る近代社会の歴史的意義を捉え、公共の福祉と主体的な社会参画のあり方について考察することができるよう配慮しました（第3号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2編すべて</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業の発達や世界の一体化にともない、自然の開発が進められたこと、また人々の自然に対する関心が高まってきたことを記述し、自然とのかかわり方や環境保全について理解と考察を深められるよう留意しました（第4号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>82, 93, 94, 120, 130～131 ページ</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>航路開拓や世界商業の進展により世界の一体化が促進された一方、列強により世界分割が行われ、各地の伝統的な産業や文化が変容を迫られていったことを記し、平等かつ平和的な国際関係の構築と相互の価値観や伝統を尊重することの重要性に気づかせることに意を用いました（第5号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>78～79, 80～82, 90～91, 94～95, 99, 124～144 ページ</li> </ul>
<b>第3編</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二つの大戦期と戦後から現在に至る、日本を含めた世界の歴史について、そこに現れたさまざまな社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3編すべて</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>この時代に現代の私たちの生活様式の基礎が形成されたことや、戦争・対立、世界経済の動向がもたらす生活への影響を記述し、生徒が自らの生活のあり方や、それにかかわる現代的な社会問題を客観的に捉え直す契機となるよう配慮しました（第2号）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>146～149, 151, 153, 157, 160, 164～165, 173, 177, 185, 189 ページ</li> </ul>

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	・民主主義や人々の権利・平等などが、戦争や植民地支配・差別などによって著しく制限された様子を記すとともに、差別の解消や権利の獲得に積極的に取り組んだ人々や、その運動について記述しました（第3号）。	・149, 158, 160, 166, 169, 173, 177, 182, 184, 189, 199, 201, 205 ページ
	・戦争や対立により多大な人命が人為によって失われ、国土の荒廃や環境破壊にもつながる兵器が使用されたことなどを記述し、生命と自然を尊重する心を育成できるよう意を用いました（第4号）。	・151, 176~177, 185, 186~187, 192, 195, 196~199, 200 ページ
	・産業の発展や核開発などにより自然環境や人々の健康を脅かすできごとがあり、克服の試みがなされてきたこと、一方で未解決の問題があることも記述しました（第4号）。	・181, 185, 190, 192, 194, 202, 203 ページ
	・二つの大戦が起こった経緯を丁寧に記述し、対話の重要性に気づかせ、平和的な国際社会の構築と発展を希求し、それに寄与する姿勢を育むことができるよう配慮しました（第5号）。	・150~151, 164~177, 178~179 ページ
	・国際協調の努力が続けられてきた一方で、なお紛争が起こっている現状について、世界平和の実現に向けて何が必要かを生徒が考察するために資するものとなるよう記述しました（第5号）。	・144~145, 154~157, 178~205 ページ
課題学習	・世界史で学んだ知識や技能を活用しながら諸課題について探究し、論述や討論活動を行うための紙面を設けました（第1号）。	・206~209 ページ
	・課題例として、紛争・エネルギー・環境問題・国際関係・差別問題などさまざまな具体例を挙げ、生徒が現代の諸課題について幅広く関心をもち、その解決と社会の発展に能動的に寄与する態度を養うことができるよう意を用いました（第1号・第3号）。	・206~213 ページ

## 4 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ▶ 高校生の発達段階を考慮し、平易で簡明な文章を心がけました。また、学習の取り組みやすさに配慮し本文テーマや索引において人名を青色の文字としました。
- ▶ 第1編から第3編の冒頭には、各編を概観する序文のほか、年表や地図、学習のねらいとなる問いを提示し、これから学ぶ内容を見通すことができるよう工夫しました。
- ▶ 活字としてユニバーサルデザイン・フォントを使用したほか、色覚特性に配慮した色遣いや、色以外でも区別をつける（右の例）など、誰にとっても読み取りやすい教科書をめざしました。

**植生の分布**

- 熱帯雨林
- 熱帯半常緑林, 雨緑林
- サバナ
- 草原 (ステップ, プレーリー)
- 砂漠, 半砂漠
- 常緑広葉樹林 (硬葉樹林)
- 常緑広葉樹林 (照葉樹林)
- 落葉広葉樹林
- 針葉樹林
- ツンドラ・氷雪
- 高山植物

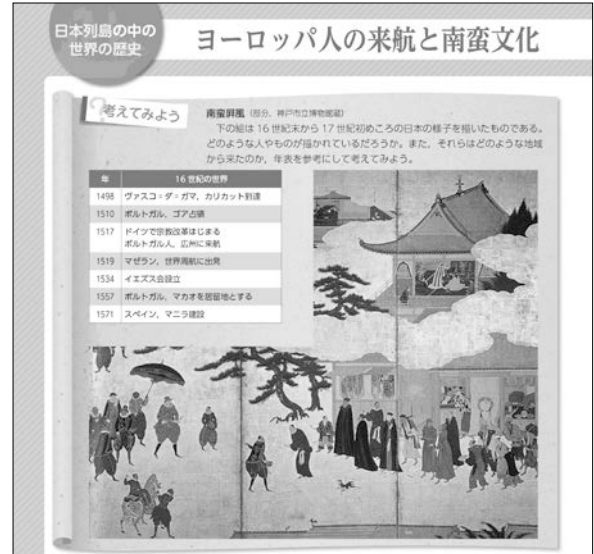
▲ p.4



## < 「日本列島の中の世界の歴史」 一覧 >

( ) 内は教科書のページ

- ・紙と印刷 (p.22)
- ・サツマイモの来た道 (p.36)
- ・仏教から生まれた文化 (p.46)
- ・奏でる歴史—吹奏楽と楽器 (p.60)
- ・日本の絵画史 (p.72)
- ・ヨーロッパ人の来航と南蛮文化 (p.86)
- ・鉄道物語—線路は続くよ… (p.100)
- ・野球と近代スポーツ (p.142)
- ・東京モスクとイブラヒム (p.162)



▲ p.86 (日本列島の中の世界の歴史)

## 2 大きな視点から捉える前近代史

▶ **文明の特質を的確に解説**…近現代史学習の前段としての前近代史(第1編)は、自然環境や生活様式・宗教・言語・民族・社会制度などに着目し、文明の特質を明らかにしながら基本的な事柄に即して記述しました。図版・写真を豊富に掲載し、視覚的にも諸文明の特質を把握できるよう配慮しました。

▼ p.70 ~ 71



**16 東ヨーロッパ世界の形成**

**ビザンツ世界の没落** 東ローマ(ビザンツ)帝国は、6世紀のユスティニアス帝のもとで、ゲルマン諸国を破って旧ローマ帝国を回復し、最盛期をむかえた。帝国では、皇帝がキリスト教の指導者でもあり、聖俗に専制的な権力をふるった。8世紀には、西のローマ教会と聖像崇拝をめぐる対立し、東西のキリスト教会の分裂を招いた。こうしてヨーロッパには、東にビザンツ帝国を中心とするギリシア正教会、西にローマ・カトリック教会という、二つのキリスト教世界が形成されることになる。

**スラヴ人の活動** ビザンツ帝国周辺の東ヨーロッパでは、スラヴ人が定住し、キリスト教を受け入れた。10世紀までには、バルカン半島からバルト海沿岸にスラヴ人の国々が成立して、ローマ教会かギリシア正教のいずれかを受け入れていた。しかし13世紀になると、モンゴル人の活動がヨーロッパ東部を席巻し、スラヴ人地域はモンゴル人の支配するところとなった。



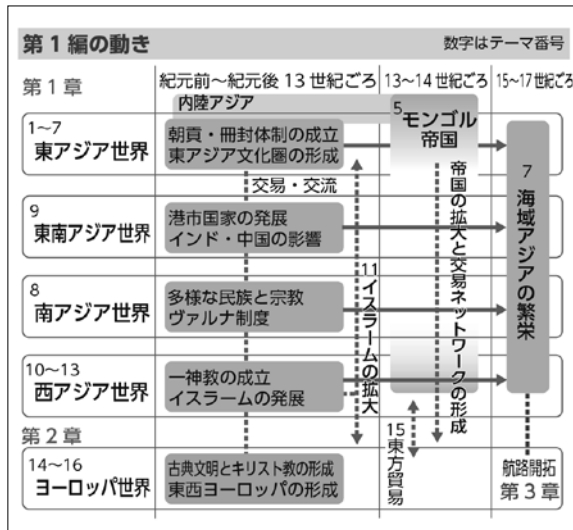
**ロシアの東方進出** キプチャク・ハン国の支配を受けたロシアでは、モスクワ大公国が成長して15世紀後半にロシアを統一した。16世紀、イヴァン4世は東ローマ皇帝の継承者として正式にツァーリの称号を用い、1552年にはキプチャク・ハン国の継承国カザン・ハン国を滅ぼし、モンゴルの支配「タタールのくびき」を断ち切った。

ロシアは東方への進出もはかった。16世紀後半、毛皮交易のためにシビル・ハン国をおさえ、コサック隊長のイェルマフなどがシベリアへ進出した。これにより、シベリアはロシアの支配下におかれることになった。

ロシアの支配は、東西交易に従事する商人や官眷のタタールを利用しては、しだいにキリスト教政策を進め、ムスリムのタタールを弾圧するようになった。タタールの一部は、カザフ草原方面へ移動した。ロシアは、コサック騎兵を用いてカザフ草原へと征服を続けた。18世紀にロシアがイスラームを容認する政策に転換すると、タタール商人たちは活発な経済的・文化的活動をおこない、中央アジアの文化を西方にもたらした。しかし、ロシアの中央アジア進出は続き、ブハラ・ビクタ・コーカンドのウズベク系3ハン国もロシアに征服された。

**まとめ** ビザンツ帝国とギリシア正教会をはじめ、スラヴ人やアジア系民族などの諸文化が融合して独自の世界が形成された。ロシアではモスクワ大公国が成長してロシアを統一し、シベリアや中央アジアへ進出した。

▶文明の交流と変容を大観…大きくアジアとヨーロッパの文明圏に分けて構成し、各文明圏や諸国の接触・交流について陸と海の両面から取り上げ、諸地域世界の文明・文化が相互の接触・交流を通じて成長あるいは再編・変容していく有様を日本列島も視野に入れて記述しました。



▲ p.10

**7 海域アジアの繁栄**

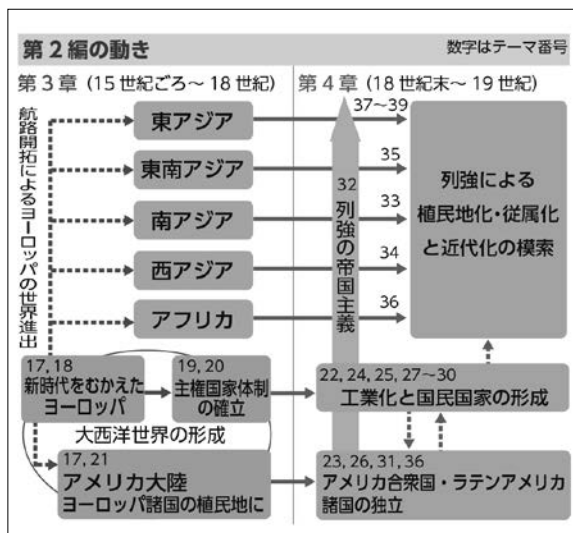
元朝のあと中国で成立した明朝は、朝貢制度を整えて、中国を中心とする秩序をつくり上げようとした。15世紀に成立した琉球王国は、明朝に朝貢するとともに、タイのアユタヤ朝などとも交易をおこなった。15世紀前半には、明朝から鄭和の艦隊が南シナ海・インド洋に派遣され、各地の政權に朝貢をうながし、海上勢力の整理をおこなった。海域アジアでの国際語として、漢文が広く用いられ、海域アジア各地の政權には漢文ができる顧問がいた。日本では、おもに禅宗の僧が外交文書の作成などを担った。海上交易がさかになると、海賊の活動も活発になった。西日本では、武装集団が海に乗り出し、倭寇へと展開した。倭寇は、14世紀後半以降、朝鮮半島で略奪をおこない、高麗の税糧を運ぶ船をおそった。海に近い住民が倭寇を恐れて土地を離れたため、農業が衰退し、高麗は衰えた。倭寇対策で名声を高めた李成桂は、高麗を倒して1392年に王位につき、国名を朝鮮として漢城（現在のソウル）に都をおいた。日本では、元寇ののちに鎌倉幕府が倒れ、14世紀半ばに室町幕府が成立した。15世紀初め、幕府の実権をにぎる室町幕府は、

32 第1編 ユーラシアの文明と交流/第1章 アジアの歴史

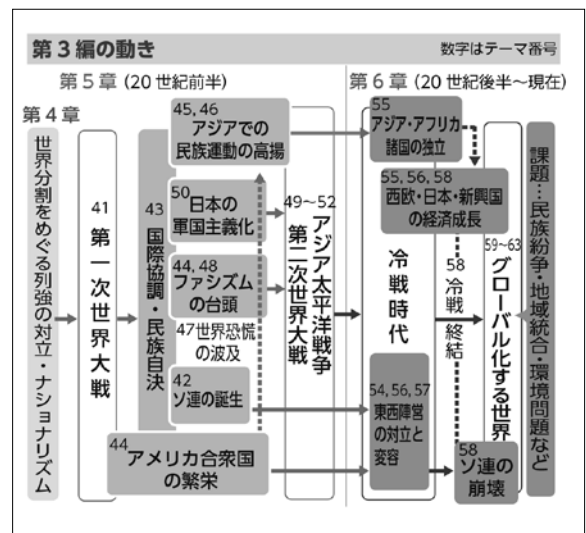
▲ p.32

### ③ 現代世界への関心・理解につながる近現代史

▶近現代史の動向を丁寧に解説…近現代史における世界の一体化の動向を、ヨーロッパとアジア諸地域の近代化への過程を概観しながら丁寧に記述しました（第2編・第3編）。その際、時間軸・空間軸に十分配慮した構成とし、複雑な近現代史の流れと構造を的確に把握し理解できるよう工夫しました。



▲ p.78



▲ p.144



▶ **歴史的観点から考察を深める工夫…近代までの歴史を背景とする現代世界の成り立ちと特質**、課題などを具体的に記述し、生徒が歴史的な視野からそれらについて捉え主体的に考察することができるよう、さまざまな事例を取り上げました（第6章2節）。現代の諸課題について考察し追究するための視点・方法やテーマ例なども具体的に示し、持続可能な社会の構築に向けて思考力・判断力・表現力を総合的に育成することができるよう配慮しました（課題学習）。

▼ p.191（第6章2節）

**2 現代世界の歩みとその課題**

◎ **冷戦後の世界—グローバル化とナショナリズムの脅威**

■ **グローバル化の時代**

現代の世界はさまざまな曲折を経て一体化への道を進んできた。しかし、自動車、コンピュータからハンパカーやファッションにいたるまで、人々の日常生活レベルで一体化したのは、市場経済の世界化と情報化の進んだ1980年代末以降である。こうした一体化の動きを**グローバル化**（グローバルイゼーション、地球規模化の意）という。グローバル化にはプラス面だけでなく、富の偏在や伝統の喪失などのマイナス面もあり、そこにナショナリズムが芽生える土壌がある。

■ **問われる国民国家**

グローバル化が進む現代世界にあっても、国家の基本形をなしているのは国民国家である。そして、国家は言語・文化・歴史などを共有する国民によって構成されなければならないとする**ナショナリズム**の考え方はいまだ根強い。学校教育で国語や歴史が重視されるのはこのためである。この思想は、統合と分離という相反する力として近代以降の世界史を動かしてきた。しかし今、こうした国民国家のあり方が問われている。国によっては、不平等や差別を感じた人々が自らの民族集団や宗教集団への帰属意識を先鋭化させることで対立を激しめ、戦争を引き起こしてきたからである。

■ **知識基盤社会の到来**

このように冷戦終結後の世界は、グローバル化とナショナリズムの両面から脅かされている。しかし、歴史が後戻りできない以上、人々が知識を生かして格差の是正と紛争防止に努め、たがいに共生をはかりながら**「持続可能な発展」**をめざすしかない。その意味で、互換な思考と国籍や性別をこえた知識・技術の関わり、交流が求められる。こうした社会は**知識基盤社会**ともいわれる。今まさに人類は英知を結集して、諸課題に対処すべき時代が到来したといえる。

このように冷戦終結後の世界は、どのような課題がおこってきたのだろうか。各地域の歩みとこれからの課題を見ていこう。

▼ p.196（第6章2節）

**61 西アジア・アフリカの諸課題**

**パレスチナ問題** 西洋列強の帝国主義支配の影響を受けた西アジアやアフリカの国々では、国民国家としての成熟に多くの困難がともなった。さまざまな紛争があり、国家間の関係も不安定な中で、**和解と共存の構築が重要な課題**となっている。

▼ p.208（課題学習）

**課題学習**

**持続可能な社会に向けて ②**

■ **討論をしてみよう**

現代世界のさまざまな課題について、クラスやグループで討論をしてみよう。ここでは原子力エネルギーの利用法を例に、2つの観点から問題点や解決法を探ってみよう。

**論点 1**

冷戦終結後はアメリカ・ロシアの間で戦略的核兵器の軍縮が進められているが、核保有国は増加している。「安全保障と国際平和を維持するために核兵器は必要か否か」を次のA・Bの観点から考えてみよう。

**A 必要論**

すでに核兵器をもっている国があるのだから、核の抑止力によって均衡を維持するためにも必要である。また、核兵器を保有することで、国家の威厳を示すことができる。

**B 廃絶論**

核廃止論は、核軍縮を引きこし、核戦争につながる可能性がある。また、核兵器を使用した戦争が頻発におこった場合、その被害は計り知れない。

▶ クラスやグループで活発な討論を進めるためには、あらかじめの準備が必要となる。テーマとなる論点をきちんと理解し、自分の主張する視点を裏付ける事実や資料・統計などを調べて、自分の主張を支持してもらえよう。わかりやすく意見を述べていこう。

**論点 2** 「原子力エネルギー」を資源として使用する場合は、核廃止を討議することになる。

たとえば、核兵器の「廃止」は、「核の抑止力」についての歴史的な経緯や資料・データを調べることが必要になるだろう。「核廃止」によって核戦争に発展しなかった事例を探せば、自分の主張の裏付けとできる。（→ p.185）

**活動 1 討議のポイント 下調べの例**

- ◎ 広義・長崎に落とされた原爆はどこで爆発したのかを調べることで、原爆の威力について考えてみよう。
- ◎ 世界を核戦争の恐怖におとしいれたキューバ危機について、調べてみよう。
- ◎ 米ソの核兵器開発競争のなかで起きた、科学者による反核運動や軍縮・軍備管理協定について調べてみよう。

④ **知識の確かな定着から活用・応用へ**

▶ **学習内容のポイント**を提示…各テーマに学習目標としての問いとこれに対するまとめを掲載し、学習内容の焦点化をはかるとともに、基礎的知識の習得と大局的な視野からの理解を深めることができるよう配慮しました。これにより、知識の定着のみならず、その活用・応用をも促し、学習をさらに発展させることをめざしました。

▼ p.129

**列強の干渉に対して、西アジア諸国はどのように対応したのだろうか。**

▶ p.128

**まとめ** 列強の干渉を受けつつもオスマン帝国では近代化改革が試みられ、立憲制度が導入された。アラブ地域ではエジプトがいち早く近代化に乗り出し、英露への従属を深めたイランでは政府への反発から立憲革命がおこった。

▶ **資料に対する問いを設置…写真・地図**などの諸資料に適宜問いを設けました。資料の積極的な活用をはかるとともに、資料を読み取る技能を高め、生徒自ら考え表現することを促す工夫をしました。

? **東南アジアで独立していた国家はどこだろうか。**



▶ p.159

▼ 第一次世界大戦後の南アジア・東南アジア

## 2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
<b>序 編 自然環境と歴史</b>	(1) 世界史へのいざない ア	4～9ページ	1
・乾燥地帯の生活と歴史	(1) 世界史へのいざない ア	6～7ページ	(1)
・海と森の世界の生活と歴史	(1) 世界史へのいざない ア	8～9ページ	(1)
<b>第1編 ユーラシアの文明と交流</b>			<b>18</b>
<b>第1章 アジアの諸文明</b>	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	12～61ページ	<b>13</b>
1節 東アジアの文明	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	12～37ページ	7
2節 南アジアの文明	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	38～42ページ	1
3節 東南アジアの文明	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	43～47ページ	1
4節 西アジアの文明	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	48～61ページ	4
<b>第2章 ヨーロッパの文明</b>	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	62～77ページ	<b>3</b>
1節 ヨーロッパの文明	(2) 世界の一体化と日本 ア・イ	62～77ページ	3
<b>○日本列島の中の世界の歴史</b>	(1) 世界史へのいざない イ		<b>2</b>
紙と印刷	(1) 世界史へのいざない イ	22～23ページ	(1)
サツマイモの来た道	(1) 世界史へのいざない イ	36～37ページ	(1)
仏教から生まれた文化	(1) 世界史へのいざない イ	46～47ページ	(1)
奏でる歴史	(1) 世界史へのいざない イ	60～61ページ	(1)
日本の絵画史	(1) 世界史へのいざない イ	72～73ページ	(1)
<b>第2編 一体化する世界</b>			<b>24</b>
<b>第3章 ヨーロッパの再編と大西洋世界</b>	(2) 世界の一体化と日本 イ	80～95ページ	<b>5</b>
1節 ヨーロッパの新時代	(2) 世界の一体化と日本 イ	80～87ページ	2
2節 ヨーロッパの主権国家と大西洋世界	(2) 世界の一体化と日本 イ	88～95ページ	3
<b>第4章 拡大する欧米の衝撃と ゆるるアジア・アフリカ</b>	(2) 世界の一体化と日本 ウ・エ (3) 地球社会と日本 イ	96～143ページ	<b>18</b>
1節 革命の時代へ	(2) 世界の一体化と日本 ウ	96～109ページ	5
2節 国民国家建設に向かう欧米諸国	(2) 世界の一体化と日本 ウ	110～123ページ	5
3節 帝国主義とアジア・アフリカの従属化	(2) 世界の一体化と日本 エ/ (3) 地球社会と日本 イ	124～133ページ	5
4節 東アジアと日本の帝国主義化	(2) 世界の一体化と日本 エ/ (3) 地球社会と日本 イ	134～143ページ	3
<b>○日本列島の中の世界の歴史</b>	(1) 世界史へのいざない イ		<b>1</b>
ヨーロッパ人の来航と南蛮文化	(1) 世界史へのいざない イ	86～87ページ	(1)
鉄道物語	(1) 世界史へのいざない イ	100～101ページ	(1)
野球と近代スポーツ	(1) 世界史へのいざない イ	142～143ページ	(1)
<b>第3編 現代世界と地球社会への歩み</b>			<b>25</b>
<b>第5章 世界戦争の時代</b>	(3) 地球社会と日本 ア・イ	146～177ページ	<b>13</b>
1節 急変する人類社会	(3) 地球社会と日本 ア	146～149ページ	1
2節 第一次世界大戦と「民族自決」	(3) 地球社会と日本 イ	150～163ページ	6
3節 第二次世界大戦の悲劇	(3) 地球社会と日本 イ	164～177ページ	6
<b>第6章 大戦後の世界と現代社会</b>	(3) 地球社会と日本 ウ・エ	178～205ページ	<b>11</b>
1節 冷戦期の世界	(3) 地球社会と日本 ウ・エ	178～190ページ	6
2節 現代世界の歩みとその課題	(3) 地球社会と日本 ウ・エ	191～205ページ	5
<b>○日本列島の中の世界の歴史</b>	(1) 世界史へのいざない イ		<b>1</b>
東京モスクとイブラヒム	(1) 世界史へのいざない イ	162～163ページ	(1)
<b>課題学習 持続可能な社会に向けて</b>	(3) 地球社会と日本 オ	206～213ページ	<b>2</b>
1 調査・研究をしてみよう	(3) 地球社会と日本 オ	206～207ページ	(2)
2 討論をしてみよう	(3) 地球社会と日本 オ	208～209ページ	(2)
3 テーマ集	(3) 地球社会と日本 オ	210～213ページ	
		計	<b>70</b>